

2017年度国際交流基金事業特別講義実施報告

2017年度国際交流基金事業・外国人学識者招聘計画（短期）の一環として、4月21日から4月23日の日程で、リヨン第三大学の（Université Jean Moulin Lyon）Peter Wirtz 教授を招聘致した。Wirtz 教授は、フランスにおけるコーポレート・ガバナンスの著名な専門家です。特に創業間もない新興企業のコーポレート・ガバナンスや資金調達に関する研究において数多くの業績をあげられている。

4月21日の3時限においては、エージェンシー理論に基づく既存のコーポレート・ガバナンス理論と認知論に基づく新しいコーポレート・ガバナンスの違いについての講義を大学院生に向けて行って頂いた。本講義においては、「高成長企業におけるコーポレート・ガバナンスは、他の企業と異なる特徴があるのか？」という命題を示して、既存のガバナンス理論とは異なる認知論的ガバナンスについて詳細な講義が行われた。下図にみられるように、認知論に基づくコーポレート・ガバナンスにおいては、認知コストが重要な鍵となることを説明された。

Interest alignment vs. cognition

Agency costs

- **Monitoring**
- **Bonding**
- **Residual loss**

Cognitive costs

- **Mentoring**
- **Externalizing tacit knowledge**
- **Cognitive heterogeneity**

4月22日の日本経営学会関東部会でのご報告は、投資家のタイプと認知論的ガバナンス、急成長企業のパフォーマンスについて報告がなされた。次ページの図表にみられるように、投資家のタイプ、すなわちビジネスエンジェルの特徴を認知論に基づき分析し、認知コストと企業の成長との関連についての説明がなされた。さらに投資プロセスが、自発的であるか、そうでないかの違いや、投資後の投資家の経営への関与の度合いが、その後のベンチャー企業の成長に影響を及ぼすという研究について詳細な報告がなされた。

